

# 東日本大震災災害対策NEWS

◇東日本の仲間とともにがんばろう◇

〒336-8512 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 6-18-12 Tel.048-863-6211 Fax048-837-1989

## 原発神話を振りまいた国、東電への怒りが次々に語られる

### 福島県連へ激励・お見舞い訪問へ

【島野記】地震、津波被害に加え、原発問題で深刻な状況に追い込まれた全建総連傘下の福島県連（全建総連福島）へ才田副委員長、斎藤書記長、竹島常任中執とともに、仲間から寄せられた救援物資を詰め込み、激励・見舞いへ四月十九日、訪問しました。

福島へ入ると風景が一変、震災の惨さが目の前に

十九日は前日の春の陽気な天候から一転し、雨によって気温も冬へ逆戻りするような気象状況でしたが、朝八時には本部を出発し東北道から福島をめざし向かいました。福島へ入ると囊交じりの雨が横殴りで降り続け



義援金を渡す。福島県連遠藤委員長（右）、才田副委員長（左）、斎藤書記長（中央）



組合員の安否状況一覧を張り出す

高速道の温度計は四度をさし、軒並みブルーシートをかける家が覆い、高速道路は亀裂と陥没でボコボコ状態。高台にある住宅らしき建物が雪崩のように落ちたまま。連日報道で写される被害風景が目の中に飛び込んできました。途中PAで昼食休憩をしていると、続々、ヘルメットに「がんばろう！福島」のステッカーを張り、迷彩服を着た自衛隊員が食堂を埋め尽くし、異様な光景と遭遇しました。本宮インターを降りると、車は通っているものの、人の姿はなく、放射性物質データが日々動く中、安心して外に出れない状況を感じました。

自治体職員は住民に寄り添い奮闘

予定時間より若干早めに着いたので、福島県連近くの大玉村役場を訪れ、東日本大震災による影響、また原発による役場の対応などの聞き取りを行い、不眠不休で住民の安全を守る自治体職員の奮闘ぶりも垣間見ることができました。

原発問題は深刻。安全神話は崩壊に怒りが

福島県連へ着くと遠藤県連委員長をはじめ、清水書記長、狩野書記次長、山崎書記次長、高橋会計、そして本部の書記局のみなさんが出迎えてくれました。

会議室には、福島県連傘下の組合員の安否状況、原発による外部被ばくの積算線量を示す福島県の大きな地図が張り出されました。最初に才田副委員長、斎藤書記長から今回の震災と原発による甚大な被害に対してお見舞いを申し上げ、義援金を手渡し、清水書記長から福島県連の仲間の被害状況、原発による避難状況などの説明を聞きし



地震による被害。土壁が崩落

四月十九日現在、組合員七八五四人中、五三六三人（七二・九％）の安否確認まで進みましたが、今だに連絡が取れない組合員が気になり、どこへ避難したのかなど、引き続き色々な伝手で連絡を取り続けているよう状況です。相馬、原町、双葉、富岡地域に住む組合員は深刻で、特に原発による避難命令によって、地域住民が引き離され、組合事務所も閉鎖状態。本部へ事務所機能を移転し、仲間の安否確認に全力を挙げています。また本部もこれ以上に放射性物質による影響が広がった場合の避難命令範囲をすでに想定し、その場合はさらに内陸にある会津へ本部機能の移転することをすでに決めていました。

\*震災による現場での影響、情報、仲間の奮闘を支部、本部へおよせください。なお、写真があればメールで送ってください。よろしくお願ひします。y\_shimano@saitama-doken.or.jp



お墓があちこちで崩壊

## 埼玉に避難した組合員へ 橋渡し役をお願いしたい

中建国保は国保料三月、五月まで減免になったようですが、この想像を絶する状況下で、やむなく組合を脱退せざるを得ない仲間もかなりの数で出ているそうです。狩野書記次長から「六月以降も、何らかの形で減免など要請し、その間に組合員が生活再建出来るよう、安心感を与えることが組合を離れる仲間を減らすことだと思っ

## 仮設住宅建設が地元工務

店・職人を中心に始動。しかし、現実の優先は自分たちの住居。これからは福島県では仮設住宅建設が始まります。福島県内の地元木材、地元工務店、職



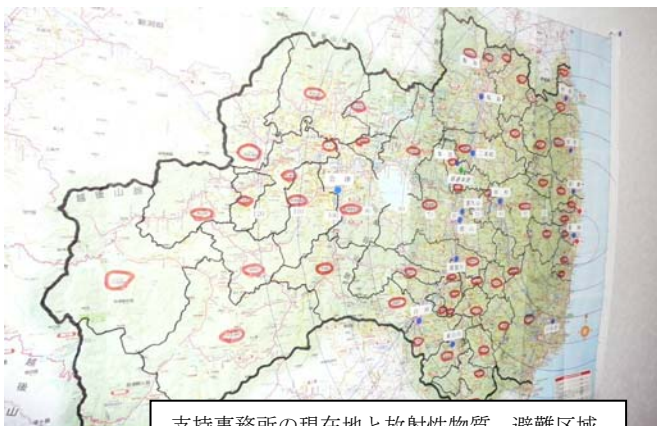
組合員安否、原発対応の説明を受ける

人を中心として五百戸の仮設住宅が五月から始まる予定です。六坪、九坪、十二坪の世帯人数別による三種の規格です。今、避難している仲間も四百人がその場合、福島へ戻る決意をしているようですが、住居は放射性物質による避難地域を外れた場所に、自分で探さなくてはならないハードルがあります。本来はそこ

の存在、役割、自治体と地域住民との連携など多くの教訓を掴むことができた訪問でした。埼玉県でも被災地が進めている対応と比較すると、教訓にすべき課題が山積していることも実感しました。

## 福島の仲間の力強い決意を感じて

埼玉土建の仲間から寄せられた物資に対して「本当に助かります。感謝申し上げます。足りないくらいです。埼玉のみなさんにお礼をお伝えください。私たちは元の生活に戻るまで頑張ります。」という言葉が、辛さや困難がある状況の中で、前を向いて進んでいる福島の仲間の力強い決意と感じました。



支持事務所の所在地と放射性物質、避難区域

### \* 現在取り組んでいる救援物資は、当面の見通しが立った情報が届きましたのでいったん終了します ～今集まっている物資は今月末までに本部へ集中をお願いします

心温まる多くの救援物資を集めていただきありがとうございます。タオルやティッシュ、マスク等、また全建総連から呼びかけられた物資については、ニュースでお伝えしてきたとおり、被災地県連・組合へ届け、現地では大変感謝されました。

- ①全建総連、全労連から呼びかけられた救援物資については、当面の物資の見通しも立った状況が入りましたので、いったん、終了します。
- ②全労連の呼びかけの救援物資で、すでに支部に寄せて頂いたものについては、これまでの基準で草加物流センターに送り、それ以外は、本部へ今月末までに集中してください。
- ③ガスコンロ、ボンベなどについても、新たな募集は中止します。今月末までに本部まで集中してください。
- ④集まった救援物資は、埼玉へ避難している施設等、もしくは現地から再度依頼が来た時、送っていきます。